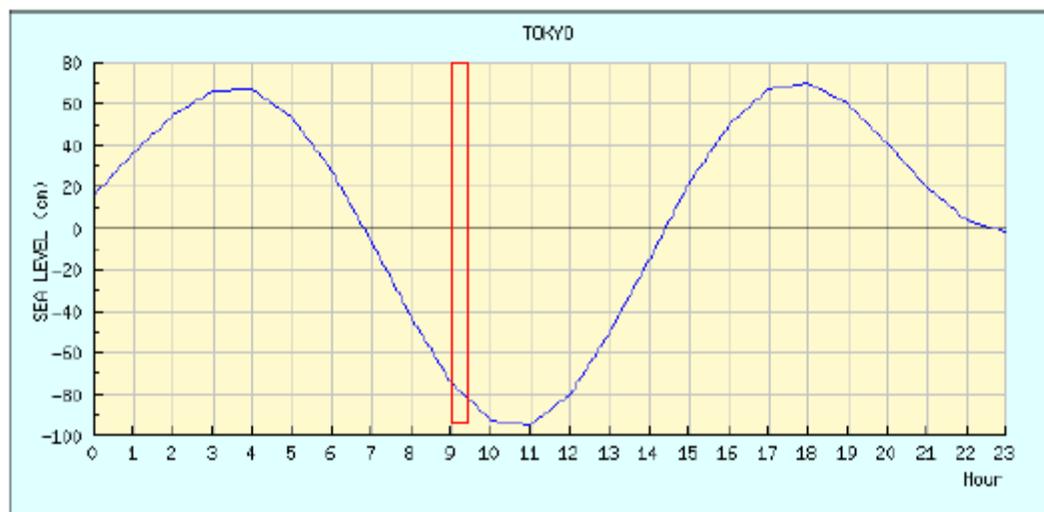


三番瀬の水の流れ及び地形に係る作業部会での指示事項への対応

No	名 調査	質疑・指示事項（委員名：敬称略）	対応等（報告書掲載場所）
1	モニタリング調査	濁度とクロロフィルの計測目的、計測機器とその特性、計測方法、計測結果の使用方法を明記すること。（細川）	計測目的：報告書P4 計測結果の使用方法：報告書P13 計器の仕様及び計測方法：報告書P.7～10 濁度及びクロロフィル計の機器特性：P.101 に記載しました。
2		突出した値等について、赤潮である、あるいは波浪による巻き上げである等の現象の説明を記述すること。（横山）	水質の経時変化：P.31、33 赤潮のイベント時：P.101 巻き上げ現象：P.107～109 等 に記載しました。
3	深 浅 測 量 調 査	全海域をいくつかの空間領域（8区分程度）に区切って、そこで収支を見る。このときに、粒径分布が過去の調査結果から変動があるかどうかを検討する。（三番瀬の中でソーティングされていて、細かいものが溜まる領域と粗いものが溜まっていく領域とがおおのずとできている、そういうプロセスがきちんと恒常的にできているのかどうかというチェック） 堆積した部分については、可動堰からの供給によるものかを検討すること。	平成18年度三番瀬自然環境調査報告書の「四季平均でみたシルト・粘土分の水平分布」をもとに三番瀬海域を7区分に分けました。（P32） シルト・粘土分の高い範囲、陸に近い範囲（特にふなばし三番瀬海浜公園）で堆積量が多いことが分かりました。
4		昭和55年度から平成20年度までの変化を図で並べることにより、部分的な傾向が見れるようにして、過去からのトレンドを検討すること。	まとめ（P33～P37）に記載しました。
5		全体の分析について、基礎的なデータ処理のプロセス（土量の計算の手順、収支： $m^3/年$ 、）あるいは土量計算するとき、途中段階の手続も明示してほしい。また、土量計算に用いた領域図が必要であり、同時に用いた領域を決定した根拠を明記すること。（細川）	平成18年度三番瀬自然環境調査報告書の「四季平均でみたシルト・粘土分の水平分布」をもとに三番瀬海域を7区分に分けました。（P32） また、計算手順等については、（P33）に記載しました。
6		過去の総合解析では日の出の前の斜面上部が崩落して下に溜まっている、さらに、ここの砂の動きをベースにして砂堆分が砂嘴状に東に伸びていっているのではないかと、というような指摘があったが、それらの指摘に対して今回の調査結果はどうであったかを記述すること。	報告書（案）（P33）に記載しました。
7		図の凡例部分等のミスを精査して、もうちょっと細かい図表そのものの注釈なり説明をお願いしたいと思います。	凡例修正を行いました。
8	カキ礁の発達については、県環境研究所のデータ、また航空測量調査データ、地盤沈下データを入手して確認して記述すること。	P31航空写真を載せました。	
9	その他	航空写真を撮った日時と潮位、写っている灰色部分、水色部分、いろいろ斑に出ているが、これの現時点での解釈を教えてください。（望月）	撮影日：平成21年6月7日（日） 撮影時刻：8：59～9：25 （別紙参照）

①航空写真を撮った日時と潮位

- ・ 撮影日：平成 21 年 6 月 7 日
- ・ 撮影時刻 8：59～9：25
- ・ 潮位（下図表参照）



注意

- ・ グラフの縦軸は潮位、横軸は時刻を示しています。
- ・ 潮位は TP 表示（標高：基準は TP（東京湾平均海面））です。

出典：気象庁ホームページ

②航空写真について

6月に撮影いたしました航空写真と平成20年度の測量調査結果と重ね合わせました。

